

V68b 北海道大学 1.6m 光学赤外線望遠鏡搭載可視分光撮像装置の開発

中尾光、徂徠和夫、渡辺誠（北海道大学）、山田真広、伊藤洋一（神戸大学）、酒向重行、宮田隆志（東京大学）

我々は北海道大学が中心となって名寄市に建設中の 1.6m 光学赤外線望遠鏡に搭載するための可視域の分光撮像装置の開発を行っている。撮像でのファーストライトは 2011 年 3 月、分光でのファーストライトは同年 6 月を予定している。

この装置はハワイ大学 2.2m 望遠鏡に搭載された WFGS2(2004 年春季年会 V51b) と同様の光学系であり、視野は約  $8' \times 4' (0.''25 \times 0.''25/\text{pixel}^2)$ 、観測波長域は 380-970 nm である。

初期運用時には、 $g', r', i', z'$  の広帯域及び、 $H\alpha$  の狭帯域フィルターを用い、分光は低分散グリズム ( $R \sim 300$ ) と長スリットにより行う。検出器は浜松ホトニクス社製の  $2k \times 1k$  CCD を使用し、読み出しには東京大学木曾観測所にて開発されている読み出しシステム (2010 年春季年会 V32b 他) を導入する。

我々は本装置を用いて近傍銀河の分光観測、前主系列星・褐色矮星の探査及び、北海道大学苫小牧 11m 電波望遠鏡を含む VLBI 連携観測網 (JVN) と連携した活動銀河核の分光モニター観測等を行う予定である。

本講演では装置の概要と開発の進捗状況について報告する。